

当社は、平成23年10月1日付でWEBサイトの一部においてリニューアルを行ないました。

今後も、迅速かつ確かな情報を提供できるようWEBサイトの内容充実を図ってまいります。



IUK

検索

<http://www.iuk.co.jp>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月に開催いたします。
基準日	
定時株主総会の議決権	3月31日
期末配当	3月31日
中間配当	9月30日
単元株式数	1,000株
公告方法	電子公告により行ないます。(http://www.iuk.co.jp) なお、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社(※1)
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行なっております。(※2)

お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 「配当金計算書」について  
配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。  
確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行なわれます。  
確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。  
確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

(※1) 当社の株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社は、関係当局の許認可を前提に、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と平成24年4月1日をもって合併し、「三井住友信託銀行株式会社」となります。なお、平成24年4月1日(日)は、株主名簿管理人の休業日につき、実際のお取扱いは、平成24年4月2日(月)からとなります。

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先・電話照会先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所、電話番号の変更はございません)

(※2) 日本証券代行株式会社による取次事務につきましては、平成24年3月末をもって終了させていただきます。

表紙の写真  
千葉共同サイロ株式会社にて据付中の当社製ニューマチックアンローダ。  
左奥に見えているのは、平成16年に納入した当社製連続アンローダ。



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

IHI運搬機械株式会社

〒104-0044 東京都中央区明石町8番1号 TEL. 03-5550-5321 FAX. 03-5550-5364

# IUK Report

株主・投資家のみなさまへ

第40期 中間事業のご報告 平成23年4月1日▶平成23年9月30日

トップメッセージ◎代表取締役社長 大坪 英志

常に進化し続ける  
グローバル企業へ

FOCUS ON IUK

国内最大級  
ニューマチックアンローダ  
の引渡し

TOPICS

アフリカ最大級  
ジブクレーンを受注



IHI運搬機械株式会社

証券コード●6321

## 業績ハイライト

売上高▶	<b>23,441</b> 百万円 (前年同期比 8.9%減)
営業利益▶	<b>907</b> 百万円 (前年同期比 48.9%増)
経常利益▶	<b>936</b> 百万円 (前年同期比 47.4%増)
四半期純利益▶	<b>451</b> 百万円 (前年同期比 46.4%増)

## 第2四半期のポイント

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により依然厳しい状況にありますが、サプライチェーンの復旧等にもとない、景気は持ち直しつつあります。しかし、欧米景気の減退や、急激な円高の進行といった不安材料により、景気の先行きは、一段と不透明な状況が続いております。

このような経営環境のなか、当社の第2四半期累計期間の受注高は、25,303百万円(前年同期比18.8%減)となりました。また、売上高は、23,441百万円(前年同期比8.9%減)となりました。

損益面につきましては、営業利益907百万円(前年同期比48.9%増)、経常利益936百万円(前年同期比47.4%増)、また四半期純利益は451百万円(前年同期比46.4%増)となりました。

## パーキングシステム事業

受注高は、駐車装置本体のうち、二・多段式駐車装置は、堅調に推移しましたが、主にエレベータパーキングが減少し12,046百万円(前年同期比9.7%減)となりました。

売上高は、メンテナンス・改修工事は堅調に推移しましたが、駐車装置本体のうち、主に二・多段式駐車装置、エレベータパーキングが減少し12,394百万円(前年同期比11.2%減)となりました。

損益面につきましては、40百万円の営業利益(前年同期比42.1%減)となりました。



## 運搬・物流システム事業

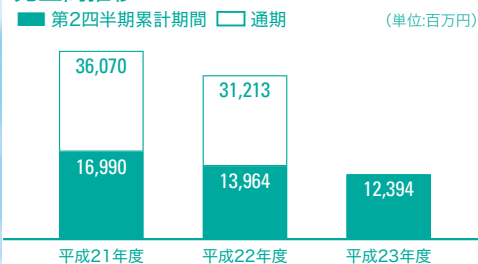
受注高は、主に荷役運搬設備、標準型クレーン本体が減少し13,257百万円(前年同期比25.6%減)となりました。

売上高は、クレーン改修工事が増加しましたが、標準型クレーン本体などが減少し11,046百万円(前年同期比6.1%減)となりました。

損益面につきましては、867百万円の営業利益(前年同期比60.6%増)となりました。



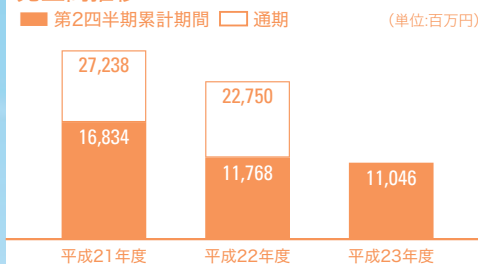
## 売上高推移



52.9%

47.1%

## 売上高推移



## 常に進化し続けるグローバル企業へ

株主のみなさまには、平素より格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第40期中間事業のご報告(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

代表取締役社長 大坪 英志



## ■ 経営環境と施策

平成23年3月に発生した東日本大震災は日本だけでなく、世界のエネルギー政策に大きな影響を与え、我々の生活様式や意識までも大転換させる事象となりました。そして、サプライチェーンの修復など一部に回復の兆しを見せた国内景気も急激に悪化し、当社を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社は近年から注力しております中国・東南アジア地域におけるネットワーク整備およびスピーディーな事業展開の一環として、平成23年10月、マレーシアに現地法人を設立いたしました。同現地法人においては、東南アジア地域でのパーキングを中心とする受注確保に注力してまいります。今後とも、さらなる市場の開拓と提案営業により、グローバルな受注拡大を目指してまいります。

## ■ ものづくり企業として

当社が、平成23年度にアンゴラ共和国PAENAL Yard(パイナルヤード)から受注いたしました陸上用旋回式

ジブクレーンは、当社の総合技術を駆使して設計いたしましたアフリカ最大の旋回式クレーンです。このような大きなプロジェクトに関わることができたことは、私たちの誇りとするところであり、今後も継続して新技術・新製品の開発や技術の伝承に注力してまいります。

また、千葉共同サイロ株式会社に納入いたしました製品など近年では、更新需要を迎えている運搬機械も増えております。今後とも、過去に納入したお客様への提案営業の強化および製品のライフサイクル全般にわたってお客様の資産価値を高めるアフターサービスに努めてまいります。

## ■ 震災対応

当社は平成23年3月に発生した東日本大震災により被災されましたお客様の設備に対する復旧作業や電力不足対応として被災した各発電所の早期復旧支援に取り組んでおります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# FOCUS ON IUK

## ニューマチックアンローダの引渡し



工業や食品産業など発展する千葉港。その千葉港において、小麦の取扱量が日本一の千葉共同サイロ株式会社で活躍中の当社製ニューマチックアンローダ。この新設したニューマチックアンローダは、当社の歴史の中でも十数年ぶりの受注でした。今回の特集は、このニューマチックアンローダの営業から引渡しまでを担当したキーマンたちをご紹介します。

### ニューマチックアンローダおよびプロジェクトの概要

#### ▶ ニューマチックアンローダとは？

小麦や大豆等の穀物をばら積船より荷揚げする荷役機械のことで、バケツで積み荷をかき出す連続アンローダとは異なり、掃除機のように穀物類を吸い上げるので、最後まできれいに取りきることが可能です。

#### ▶ ニューマチックアンローダの特徴

##### ①大型船からサイロへ穀物の保管

大型船から穀物をノズルで吸い上げて、コンベヤに落としてそのままサイロへ保管します。サイロは1つではなく複数あります。

##### ②大型船からノズルで吸い上げて舁積込装置から舁へ積み込み

大型船が停泊中の際に舁(はしけ)へ穀物を直接積み込みます。



積み込み作業中のニューマチックアンローダ



大型船

日本と海外の間で海上運送に使用される船舶です。コンテナ船、一般貨物船、ばら積船などがあります。



内航船

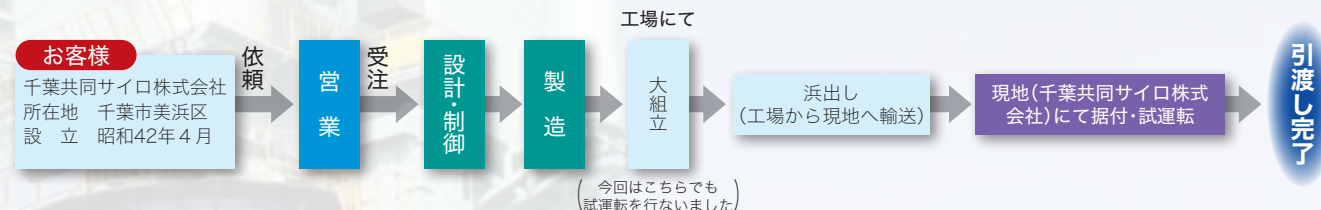
国内における海上運送に使用される船舶です。海外から輸入される穀物を積み替えて国内の他港湾に二次輸送される時に使用されます。



舁(はしけ)

港湾内や、河川・運河等の内陸水路で貨物輸送するために作られた平底の船舶です。

#### ▶ 受注から完成引渡しまでの主な流れ



#### 営業担当者インタビュー

**Q** 今回のプロジェクトのきっかけや受注した時の思いを教えてください。

**A** 今回のプロジェクトは、以前から当社がお客様のアンローダのメンテナンスを行っていたことがきっかけで声をかけていただきました。

当社と千葉共同サイロ株式会社は、40年以上のお付き合いがあり、お客様の施設では、当社が平成16年に納入いたしました連続アンローダも活躍しております。今回、お客様に当社のメンテナンスを評価していただき、ニューマチックアンローダ新設を決めていただけたことは、本当に嬉しかったですね。

また、これまで私は、運搬機械の新設から納入後のメンテナンスまで一貫した営業活動を行ってまいりましたが、ニューマチックアンローダの新設を担当させていただいたのは初めてです。このような機会に携わることができ、非常に嬉しく感じます。



**Q** 今後の抱負は？

**A** 今回、十数年ぶりのニューマチックアンローダの新設でしたが、千葉共同サイロ株式会社からは高評価をいただいております。

当社の強みでもある既納製品に対する改修・メンテナンスなどのアフターサービスの提供を継続していくとともに、今回のプロジェクトでの経験を活かし、今後もお客様のニーズに最適な荷役機械新設の営業展開に積極的に挑戦してまいりたいと思います。

運搬・物流システム事業本部  
営業統括部

原田 淳一

十数年ぶりの  
納入にかけた熱い思い



## 設計担当者インタビュー

# 男たちの挑戦

**Q** 製品のアピールポイントは？

**A** 1本のノズルで国内最大荷役能力400tを実現したことです。従来の当社の製品では、2本のノズルで400t/hの荷役を行っていました。今回納入いたしました製品のように1本のノズルにすることで、製品自体の重さが軽くなり、車輪荷重も減少しています。また、サイロから内航船への積み込み装置を設置したことも大きな特徴です。大型船が停泊していなくてもサイロの中に穀物があれば、内航船への積み込みが可能になりました。大型船の入航スケジュールに関係なく日本全国の港へ穀物を輸送することができます。さらに、これまでは舳(はしけ)にしか積み込みはできませんでしたが、積み込み装置が伸びることによって、内航船への積み込みも可能となりました。舳(はしけ)で同じ湾内へ輸送するだけでなく、内航船により日本全国どここの港湾にも穀物を輸送することができるようになったため、千葉港のさらなる拠点機能強化(ハブ港化)に貢献しています。

**Q** 自身が感じるIUKの強みは？

**A** 今回納めさせていただいたニューマチックアンローダは、諸先輩方が残した資料やノウハウを参考に設計を行っており、当社には歴史があることが強みだと思います。また、メンテナンス担当者から話を聞くことでお客様の声をより反映した設計ができるので、メンテナンス部隊の存在は大きいですね。



運搬・物流システム事業部 設計部(制御担当) 片岡 慎太郎  
生産建設部(製造担当) 藤井 孝夫  
設計部(設計担当) 清水 徹

**Q** 今後の抱負は？

**A** 今回のニューマチックアンローダは、当社の歴史の中で諸先輩方が製作したものを参考に製作しました。お客様のニーズに合致した製品であるのはもちろんのこと、今後はさらにその時代や状況に合ったニューマチックアンローダを製作したいと思います。

## 据付・試運転担当者インタビュー

# メンテナンスに対するお客様の信頼



運搬・物流システム事業部生産建設部 試運転担当 杉田 充弘

据付担当 佐藤 祐貴

**Q** 現場で感じることは？

**A** どの現場においても、一つ一つの作業に危険がともない一歩間違えば災害に繋がるため、常に安全を意識しています。今回の現場においても、作業時の指差し確認や危険予知の徹底など、常に安全意識を持ちながら、試運転作業を行ないました。また今回は、お客様のご要望である1時間に400トンの小麦を荷揚げする性能が発揮されるかを確認することが任務でした。実際の試運転作業では、このような性能がすぐに発揮され、お客様への引渡しもスムーズに行なうことができました。

**Q** 自身が感じるIUKの強みは？

**A** お客様のご要望に対して可能な限り対応できること、個々のお客様に合わせたものを創る技術力だと思います。

**Q** 今後の抱負は？

**A** 安全衛生に関する諸法令を遵守し、安心・安全な工事に取り組むことを心がけ、少しでもお客様の期待に応えられるように努めてまいります。今回のプロジェクトで学んだことを次の現場でも活かして頑張っていきたいと思っています。

写真=浜出し中のニューマチックアンローダ (当社製のフローティングクレーンによって海上輸送されました。)

## 1 自走式駐車場事業の譲受けについて

平成23年10月1日付で石川島建材工業株式会社(以下、「IKK」といいます。)から自走式駐車場事業を譲り受けました。

IHIグループでは経営資源の全体最適を目指し、平成17年10月に株式会社IHIから自走式駐車場事業はIKKへ、機械式駐車場事業は当社へ各々事業譲渡を行ない、両社の業績向上に尽力してまいりました。しかしながら、リーマンショック以降、民間設備投資の抑制による厳しい駐車場市場のなか受注が伸び悩み、当社は今後の事業拡大のため、抜本的な対策の検討を行ってきました。

今般、IHIグループにおける総合駐車場事業の全体最適と受注確保をさらに推し進め、将来への成長戦略の実現とさらなる業績向上を図ってまいります。



自走式駐車場外観(在来)



自走式駐車場内観

## 2 デリッククレーンおよび吊具事業の譲受けについて

平成23年10月1日付で株式会社IHIからデリッククレーンおよび吊具事業を譲り受けました。

同事業を譲り受けることに対し、当社といたしましては、運搬機械事業の設計技術力、生産工場における製造ラインアップの充実、改修・メンテナンス等の強化となるという判断に至りました。

今般、当社の総合運搬機械事業の受注拡大と利益改善をさらに推し進め、将来への成長戦略の実現とさらなる業績の向上を図ってまいります。

## 3 マレーシア現地法人設立に関するお知らせ

東南アジアの需要動向の把握およびスピーディーな事業展開のための拠点を構築することを目的として、平成22年10月にシンガポール連絡員事務所を開設して以来、グローバル展開を進めてまいりました。

今後も継続的な受注が見込まれる東南アジアにおいて、さらなるネットワーク整備を進めるため、平成23年10月、マレーシアに現地法人(IHI Transport Engineering Malaysia Sdn.Bhd.)を設立いたしました。

マレーシアでは、政府による新しい経済政策により、企業の景気が改善されるなど今後も継続的な成長が見込まれることから、当社パーキングシステム事業のプレゼンスを高め、現地ポーションである据付・メンテナンスを含めた現地での契約体制による拡販とさらなる業績の向上を図ってまいります。



クアラルンプール市内

## 4 PAENAL Yard向け海洋設備建設用2,500t吊ジブクレーンを受注

アンゴラ共和国PAENAL Yard(パイナルヤード)向け2,500t吊陸上固定旋回式ジブクレーンを受注いたしました。

PAENAL Yardは、海洋構造物を建造する造船会社で、主にFPSO(浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備)建造時の大型モジュールの組立・搭載用として、本ジブクレーンが使用されます。本クレーンは、平成24年3月までに運転を開始する予定です。

以下クレーンの主な特徴です。

### 1.アフリカ最大の陸上固定旋回式クレーン

本クレーンは、陸上に設置されるクレーンとしては、アフリカで最大の旋回式クレーンです。



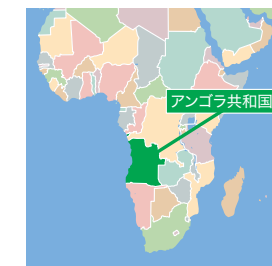
モジュールを吊り上げるジブクレーンイメージ図

2,500tという大荷重を吊れることで海洋構造物の建造においてモジュールサイズを大型化することができ、お客様の生産効率の向上に大きく貢献します。

### 2.軽量かつ大荷重吊りが可能

2,500tという大荷重を吊ることが可能ですが、軽くて丈夫なパイプ鋼材を使用し、ジブ部にトラス構造(\*)を採用することにより、軽量化を達成しました。基礎への負荷を軽減するなどお客様のトータルコストダウンにも貢献します。

\*…トラス構造とは、三角形を基本としてその集合体で構成する構造形式のことです。



完成イメージ図

四半期貸借対照表(要旨)

単位:百万円

科目	前期末 平成23年3月31日	当第2四半期会計期間末 平成23年9月30日
資産の部		
流動資産	37,737	38,035
固定資産	13,388	13,065
有形固定資産	7,251	7,086
無形固定資産	718	590
投資その他の資産	5,418	5,388
資産合計	51,126	51,101
負債の部		
流動負債	24,056	23,836
固定負債	6,787	6,817
負債合計	30,844	30,654
純資産の部		
株主資本	20,281	20,448
資本金	2,647	2,647
資本剰余金	1,396	1,396
利益剰余金	16,248	16,415
自己株式	△ 10	△ 11
評価・換算差額等	0	△ 0
純資産合計	20,282	20,447
負債純資産合計	51,126	51,101

四半期損益計算書(要旨)

単位:百万円

科目	前第2四半期累計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当第2四半期累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
売上高	25,732	23,441
売上原価	20,883	18,343
売上総利益	4,849	5,097
販売費及び一般管理費	4,239	4,189
営業利益	609	907
営業外収益	99	90
受取利息及び受取配当金	15	17
その他	84	72
営業外費用	73	62
支払利息	16	8
その他	57	53
経常利益	635	936
特別損失	5	0
税引前四半期純利益	629	936
法人税等	321	484
四半期純利益	308	451

四半期キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:百万円

科目	前第2四半期累計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当第2四半期累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,141	398
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 392	△ 155
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 314	△ 320
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 7	△ 1
現金及び現金同等物の増減額	3,426	△ 79
現金及び現金同等物の期首残高	7,736	12,842
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,163	12,763

(注) 本財務諸表の作成にあたり、記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

当社WEBサイトのご案内

IUK IR

<http://www.iuk.co.jp/cgi-bin/ir/list.pl>

こちらから決算短信などをご覧いただけます。ご利用ください。

会社概要 (平成23年9月30日現在)

商号	IHI運搬機械株式会社
本社	〒104-0044 東京都中央区明石町8番1号 TEL. 03-5550-5321 FAX. 03-5550-5364
設立	昭和48年4月2日
資本金	2,647,499,500円
従業員数	1,505名
事業内容	当社は、運搬機械の総合メーカーとして、パークキングシステム、運搬・物流システムの開発・設計・販売・製造・据付・メンテナンス・改修などを事業としております。
主要な事業所	北海道営業所 / 東北営業所 / 中部営業所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沼津工場 / 安浦工場 / サービスセンター全国57ヶ所
海外事務所	シンガポール連絡員事務所
関係会社	杭州西子石川島停車設備有限公司 / 石川島運搬機械(香港)有限公司

役員 (平成23年9月30日現在)

代表取締役社長	大坪英志
常務取締役	志村俊和
常務取締役	岡山弘
常務取締役	岡野弘道
取締役	神林隆
取締役	入江知安
取締役	上沼繁夫
取締役	戸原淳次
取締役	島村信太郎
取締役	井上芳樹
取締役	河原泰
取締役	溝田隆一
社外取締役	土田剛
常勤監査役	畑中助光
社外監査役	山根秀行
社外監査役	渡辺寛
社外監査役	前田恵三

株式状況 (平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数	99,684,000株
発行済株式総数 (自己株式31,239株を除いております。)	28,428,752株
株主数	2,312名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社IHI	19,057	67.03
日本駐車場開発株式会社	1,906	6.70
IHI運搬機械従業員持株会	1,244	4.37
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	297	1.04
時田 一弘	121	0.43
岩崎電気株式会社	109	0.39
CBNY - DFA INVESTMENT TRUST COMPANY - JAPANESE SMALL COMPANY SERIES	73	0.26
株式会社みずほコーポレート銀行	66	0.23
松浦 正美	61	0.21
日新火災海上保険株式会社	55	0.19
日本興亜損害保険株式会社	55	0.19
株式会社三井住友銀行	55	0.19

(注)1. 自己株式31,239株を控除して計算しています。  
2. 持株数については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布

